

No.34号

社教連会報

発行 社団法人 全国社会教育委員連合

〒100 東京都千代田区霞が関3-2-3
国立教育会館内 Tel 03-3580-0608

生涯学習社会

文部省生涯学習局長

岡村 豊

新年には、平常とは多少異なったことを考えることがある。

自分が子供の頃と現在と何がどう違っているのか、また、子供が今の自分と同じような年になる三十年後には今と何がどう違っているだろうか。

昔に比べ、お金や物（土地を除く）が格段に豊富になっていり、行動の範囲が極めて広がっているし、情報の量も手段も非常に増えた。しかし、遊びの種類は異なるにせよ、子供達のやっていることは、それ程変わっていないし、多分、昔の子供達とほとんど同じような事を考えているのだろう。大人についても、算盤やガリ版は無くなっても、やっていること、考えていることに、大した進歩はなさそうだ。

三十年後の日本の人口は、一億二千四百万人で今と変わらないが、よく言われているように、六十五歳以上の者の比率が、現在の約二倍の二十五%と

なり、欧米諸国よりかなり高くなる。

十八歳人口も、現在の二百万人が、十六、七年後には確実に百二十万人になる。冷戦が終わり、世界の国と国との

関係の枠組みが変わったと言われ、又、終身雇用や年功序列等の仕組みも維持出来なくなると言われ、特にホワイトカラーの管理職については、既にその過剰な事が指摘されているが、三

十年後の子供達や大人達は、何を考え、何をしているだろうか。文科系の学生達は、相変わらず、「真面目に勉強しろと言われても、採用するほうがそれを求めているんじゃないか」と

言っているのだろうか。採用の時も、その後も、学校での教育を含め生まれ

た時からそれまでに育ててきた能力が問われているのが社会における実態である。現在の日本の大学の教育がそのような能力を伸ばせないようなものになっているとしたら大変残念なことで

ある。又、大学で暗記した知識だけを調べても余り意味がないし、それで採否を決めるような所も僅かであろう。

「人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような社会」(平成四年七月 生涯学習審議会答申)というのが、生涯学習の理念が定着し、躍動している社会の姿である。

学習の目的は様々であろう。職業上の能力を伸ばす、資格を取る、家庭生活に必要な能力を伸ばす、外国に行くため必要だ、各種の問題について詳しく知りたい、趣味として、人生を豊かにする等。

学習の場所も時期も方法も実に多様である。

その為には、多様な学習ニーズに応えた多様な学習機会(学校が提供するものを含むのは勿論のこと、個別の学習ニーズに込んでいる図書館や博物館等の活動も含む)が、それについての情報も含めて、豊富に提供されること、必要なものについては適切な評価とそれについての正当な取扱いがされる必要がある。

今後の社会の変化が、基本的に、人々のこの様な学習意欲を増進させ、積極的に受け入れるような開かれた前向きのものであることを願っている。

三十年後の社会が、上述の生涯学習社会であることは、今の子供達にとっても、将来の子供達にとっても、より幸せなことと思う。

第35回全国社会教育研究大会(佐賀大会)を終えて

自然と文化のかおり豊かな佐賀県に、全国各地から二千五百人の社会教育委員をはじめとする社会教育関係者の方々をお迎えして、第三十五回全国社会教育研究大会(佐賀大会)を十月十三日から十五日までの三日間開催した。

会場となった佐賀市は、鍋島三十六万石の城下町で、現在その歴史伝統を生かした「風格と躍動の人間都市」づくりを目指しております。

近年、急激な社会情勢の進展に伴い、人々の学習意欲が増大する中で、生涯学習社会の構築が急務となっております。また、昨年より実施された学校週五日制により、あらためて社会教育に対する期待とその重要性が認識されてきております。

このような動向を踏まえ、「地域の特性を活かした生涯学習の在り方を考える」を主題とした本大会において、全国から参加いただきました方々と、それぞれの地域における活動の発表や意見交換ができましたことは、大変意義深いことだったと思えます。

開会行事の中で、社教連の鈴木勲会長は「学校週五日制は、教育が学校にのみ依存するのではなく、子どもの生活全体に家庭・地域社会も視野に入れたところで、はじめてバランスのとれ

た人間形成が行われるという考え方に基づいており、家庭教育や校外活動のあり方については、経験豊かな社会教育に期待されている。」ことと、「社会教育は、本来、地域に密着した活動が重視されるものであり、今日の複雑化・個性化してきた住民生活に対応し得る、幅広い適切な活動が望まれている。」ことを述べられました。

開会行事に引き続き行われたシンポジウムでは、佐賀短期大学の西川黎明教授の司会により、「今日から明日へ——いま社会教育を考える——」をテーマに、将来に向けて社会教育のとるべき方向性と展望について、長崎県公民館連絡協議会会長である松尾耕之助国見町長をはじめ四名のシンポジストに公民館・学識経験・行政・女性としての立場から、活発に意見交換をしていただきました。

その中で、これからの社会教育の展望として、既存の教育領域、学校・家庭・社会等の枠組みを取り外し、総合的な観点から異領域間・異業種間のネットワーク化を図っていくことが重要で、学校教育・社会教育も含めた生涯にわたって学べる組織づくり(体系化)がポイントであると強調されました。第二日目は、十部会別の研究協議を

設定しましたが、各部会とも終日かけて活発な討議が行われました。

今回は特に、「文化財とまちづくり」の新たな部会を設け、愛媛県内子町と佐賀県三田川町の事例発表をお願いしました。各部会とも、二名の問題提起者からの事例発表をもとに意見交換がなされ、同時に参加者の中からも各地の事例の紹介がされる等、熱気溢れる中で運営することができました。

第三日目は、佐賀県の出身で、国立那須甲子少年自然の家所長内田忠平氏をお迎えし、「悔いのない人生をおくるために 新しい風——生涯学習——」と題して、記念講演をいただきました。

先生は、阿蘇・沖繩の青少年の家、文部省生涯学習局など社会教育ひとすじに歩んで来られた実績を踏まえて、時には歌も交えながらのユーモア溢れるお話は聴衆を引き込んで、大変有意義なものでした。

「高齢化社会を迎え、長い人生を生きがいあるものにするため、多様な趣味とか教養を高める等の取り組み(学習)が必要である。そのためには、現在の知識を中心とした学力観を改め、小さい時から自然とのふれあい等、多くの体験活動を通して『知る喜び・学

ぶ楽しさ』という芽をつくってやる必要がある。」ことを、事例をあげながらお話になりました。

大会の締めくくりとして、大会宣言決議において、生涯学習時代を迎えた今日、「人々の学習活動を支援するため、社会教育施設・設備を拡充するとともに、専門的指導者の充実・確保を図ること」をはじめとした五項目を採択し、社会教育委員の任務を自覚するとともに、一層の努力を続けていくことを確認しました。その後、次期開催地である岩手県の社会教育連絡協議会水本光夫会長のあいさつをもって幕を閉じました。

最後になりましたが、本大会開催のためにご指導・ご助言をいただいた関係諸機関をはじめ、ご多忙中にもかかわらずご協力下さった講師・役員の方々、運営役員の皆様方に心から感謝申し上げます。

前年度九月の第一回目の準備委員会以来、全国からの参加者に気持ち良く、充実した三日間を過ごしていただけるように準備してきたつもりですが、何かと不行き届きの点もありましたことをお詫びいたします。

以上、大会の報告をいたしまして、お礼の言葉に変えさせていただきます。

佐賀県社会教育委員連絡協議会会長
第三十五回全国社会教育研究大会

実行委員長 宮原 久

地区研究大会を終えて

北海道地区研究大会を終えて

「第33回北海道大会」は、九月二十八日、二十九日の両日、行楽地と知られる留寿都村のマンモスホテル「ルストツリゾートホテル」を会場とし、六百六十名の参加のもと盛会裡に開催されました。

本大会は、生涯学習時代における社会教育の今日的課題として「自然」を取り上げ、シンポジウム・各部会討議・記念講演等を通して熱心な研究協議が行なわれました。

一 研究大会の概要

○研究主題

「地域の自然に学び、ともに生きる社会の創造をめざして」

一 身近な自然を生かし、ともに学びあう社会教育を考える

○シンポジウム

「自然とともに生きる環境を考える」をテーマに、行政・民間・実践者の代表から提言していただき、今後の展望と取り組みについて示唆していただきました。

○部会討議

第一 生涯学習

「生死」を考える

東北地区研究大会を終えて

名峰蔵王連峰を望む山市に、東北各地区の社会教育委員及び社会教育行政の担当者が集い、「生涯学習社会の形成をめざす社会教育のあり方を考える」を研究主題とし、パネルディスカッションと分科会を実施しました。

第一日目、パネルディスカッションでは、環境問題を社会教育の場面で正面から取り組んだ初めての試み。地球規模の環境を視野に入れながら地域社会、生活レベルの問題として、社会教育の対応について論じられ、大きな反響を呼びました。

会場は参加者で埋め尽くされ、熱気につつまれた様子は、テレビ取材を通じて、直接山形県内に伝えられました。

第二日目、社会教育の今日的課題に対する対応についての分科会。問題提起者、助言者は、東北各県の方々から分担・協力していただき五つの分科会で、活発な意見の交換、討論がなされました。

大会概要

- ◇期日 九月二十八日～二十九日
- ◇会場 上山市上山温泉 村尾旅館
- ◇歓迎演奏《フルートと琴の合奏》
- ◇パネルディスカッション

《環境問題に対する社会教育の方向を探る》

☆コーディネーター
舛田 忠雄（山形大学教授）

☆パネラー

北村 昌美（山形大学名誉教授）

蕨谷 榮三（上山市教育長）

水戸部浩子（フリーライター）

菅野 芳秀（有機農業家）

◇分科会

第一分科会《社会教育行政》

第二分科会《学習情報提供》

第三分科会《学校外活動》

第四分科会《ボランティア活動》

第五分科会《地域の活性化》

◇参加費 二千五百円

◇参加者総数 六百五十九名

大会宣言文を採択し、二日間にわたる大会の幕を閉じました。

本大会開催にあたり、山形県では、社会教育委員連絡協議会等の組織化がなされていないため、県の社会教育委員及び市町村からの代表による実行委員会を組織し、大会運営にあたりました。今後、本大会を契機に連絡協議会等の組織化をめざすとともに、東北各県並びに全国の各組織と連帯を図り、社会教育の課題解決に向けて努力していく考えであります。

最後に、各県の大役員、実行委員はじめ多数の方々のご協力をいただき、無事成功裡に終了することができましたことに心より感謝いたしております。

—— 山形県教育庁社会教育課
社会教育主査 佐藤利廣 ——

関東甲信越静地区研究大会を終えて

本大会は、日本一の高さを誇るランドマークタワーが、大会の一ヶ月前に完成した横浜を会場に「生涯学習の観点に立った社会教育の今日的課題と、社会教育委員の役割について研究協議する」の趣旨のもとに、一都十県から多数の参加者を得て開催された。

一 研究大会の概要

- ①日 時 平成五年九月九日・十日
- ②会 場 神奈川県立県民ホール 他
- ③参加費 三千元
- ④参加者数 一、四七七名
- ⑤研究主題 「豊かな地域社会の創造と生涯学習」

— 今、社会教育委員は どうあるべきか —

⑥分科会の構成

- 第一 地域社会における生涯学習推進体制のあり方
- 第二 人権の尊重と同和教育の推進
- 第三 国際化の推進と生涯学習
- 第四 地域文化の創造とまちづくり
- 第五 青少年が健やかに育つための環境づくり
- 第六 地域に根ざした男女共同社会の創造

⑦基調提案

- ⑧ パネルディスカッション
テーマ「芸術・文化のより身近な日常化にむけて」

地域文化活動と生涯学習

二 成果

① 分科会では、昨年度研究大会の分科会構成をふまえて、今日の課題に的を絞って構成したこともあり熱心な討議がなされた。

② パネルディスカッションでは、横浜国立大学教授 吉川弘先生のコーディネートのもとに、芸術家、地域での実践者、学識者と幅広い観点からテーマに沿った話し合いがなされた。そのため、会場との意見交換は時間が足りなくなるほど白熱し、帰りの時間を心配するほどであった。

③ 大会の中に「神奈川らしさ」が入らないかということで、冊子の中に参考資料として「神奈川の生涯学習にかかわるデータバンク」を載せた。内容的には県下三十七市町村の生涯学習に関する事業の状況、社会教育委員の構成・活動等である。大会中にこのことについて協議はできなかったが、荷物にならないおみやげとして今後の活用を期待したい。

三 おわりに
本大会が盛会のうちに終わることができたのは、当日御参加いただいた皆様をはじめ、関係各位の御協力の賜物と感謝し、報告いたします。

— 神奈川県社会教育委員連絡協議会 —
事務局長 石塚 勲

東海北陸地区研究大会を終えて

秋空に雲一つない天候に恵まれ、「第二十四回東海北陸社会教育研究会」は、愛知県東の玄関、三十五万都市、豊橋市において開催いたしました。豊橋市は、江戸時代、吉田宿として栄え、現在は、愛知県はもろろん静岡県、長野県にまたがる経済、文化の中心であり、市をあげて生涯学習推進に取り組んでおられます。

また、今大会は、十一月に愛知県で開かれた第五回全国生涯学習フェスティバルの協賛事業であり、この祭典との関連を十分検討しつつ準備を進めました。以下は、大会の概要です。

○研究主題 「生涯学習時代の課題に対応する社会教育の在り方を考える」

○期日 平成五年十月二十八日、二十九日

○会場 豊橋勤労福祉会館
ホリデイ・イン豊橋

○参加者数 一、二五五人
〔第一日目〕

勇壮な長篠陣太鼓の響きで幕をあげた開会行事では、市川会長の力強い挨拶、受賞者皆出席の表彰式に続き、県市の来賓より激励と歓迎を受けました。次いで、分科会に移り、各分科会では、二つの提案を基に主題に迫る研究協議を展開、協議中、分科会場を離れる人の無い熱心さに感銘しました。

第一分科会 生涯学習の推進体制
第二分科会 人生八十年時代の成人教育
第三分科会 学校週五日制と青少年の育成
第四分科会 望ましい家庭教育
第五分科会 差別のない社会をめざす人権教育
第六分科会 健康で活力ある生活のための生涯スポーツ

〔第二日目〕
全体会では、各分科会の司会者より報告がなされ、愛知教育大学教授、斎藤秀平先生に、まとめと方向づけをしていただきました。

記念講演は、愛知県心身障害者コロニーこばと学園長の篠田達明先生が、「歴史的人物の医療よもやまばなし」の演題で、主に東海北陸各県にかかわる歴史上の人物を取り上げ、医学の視点からユニークなお話をされ、参加者は登場人物の時代へと誘われました。そして、大会宣言を採択し、大会旗は富山県に引き継がれ、愛知大会は幕をおろしました。

最後に、大会開催にお力添えを賜りました皆様、ご参会の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

— 愛知県社会教育委員連絡協議会 —
事務局 山村博保

近畿地区研究大会を終えて

炎暑の七月中旬、近畿二府四県から社会教育委員をはじめとして多数の社会教育関係者が、琵琶湖のほとり、水と緑豊かな滋賀の地に集いました。

本大会は、昨年度の京都大会の成果をふまえながら、「生涯学習社会の実現に向けた社会教育のあり方」を考えた研究主題としました。

「激動」ともいえる社会情勢の変化のもと、教育改革をめぐる動きも急を告げております。そこで、国の生涯学習審議会答申に基づき、青少年の学校外活動の充実やボランティア活動の推進など各地で積極的に取り組まれ、生涯学習に関する住民の関心も一段と高まりつつある中、それぞれの地域における社会教育活動の成果や課題について研究・討議を深めたことは、大変意義深いことでした。

以下、大会概要を紹介します。
○期日 平成五年七月一五日～一六日
○会場 滋賀県大津市
「大津市民会館」(主会場)
○参加者 約千二百人
○基調講話
『生涯学習社会づくりの現状と課題』
文部省生涯学習局婦人教育課長 大野 曜 氏

○分科会の構成
第一 生涯学習推進体制の整備

第二 ボランティア活動の推進
第三 生涯学習まちづくりの推進
第四 家庭・地域の教育力の活性化
第五 高齢社会への対応
第六 地域ぐるみの同和教育の推進

※各分科会では、基調講話とそれぞれ二つの問題提起をもとに、テーマに沿って熱心な研究討議が行われました。

○アトラクション
フルート オーケストラ
「湖笛の会」

○記念講演
『生涯学習時代の社会教育』
放送大学学園理事 齋藤 諱 氏

最後に、二十一世紀に向けて、人権尊重の精神を基盤にすべての人々が生涯にわたって生きがいをもち、活力ある地域社会の実現に貢献していく決意を大会宣言として採択し、閉会しました。

本大会を盛会裡に終了することができましたのは、大会参加者の熱意はもとより、近畿各府県の大会役員はじめ多くの方々の御協力の賜と、心より感謝いたしております。

滋賀県社会教育委員連絡協議会
事務局 三田村治夫

中国・四国地区研究大会を終えて

中国・四国各県から八百二十余名の社会教育の仲間が空から、陸から、そして海を渡り、いで湯と俳句のふるさと愛媛に集い合い「第十六回中国・四国地区社会教育研究大会」を開催した。

研究大会の概要
○研究主題・シンポジウム主題
「生涯学習社会の実現を目指した社会教育のあり方」

○期日 平成五年七月二十日～二十一日
○会場 愛媛県民文化会館
松山市立子規記念博物館ほか

○参加費 二千五百円
○記念講演
「龍馬になれ！」
愛媛県生涯学習推進講師 村上恒夫

○アトラクション
「伊予長浜豊年踊り」(保存会)
○分科会の構成
第一分科会 青少年教育
第二分科会 成人教育
第三分科会 社会体育
第四分科会 同和教育
○大会宣言採択
中国・四国地区社会教育研究大会が本県で開催されたのは、九年ぶり二度目のことである。この間、「十年一昔」と言われるように、生涯学習振興法の制定や学校週五日制の導入など社会教育を取り巻く環境も大きく変化した。シンポジウムや分科会の実践事例もこ

うした新たな課題に即した地道な取組みが数多く報告され、今後の社会教育の在り方を研鑽し合うことができた。このような新しい流れの中にあつて、社会教育の振興、発展に思いを募らせながら本大会に参加し、地域、年齢、職業を越えてふれあい、学び合う仲間たちの真摯な態度や熱意には、長く受け継がれゆく不変のものを感ずる感動を覚えた。

本大会では、いつでも、どこでも、だれでもが学べる生涯学習社会の実現という立場から、記念講演講師には、地域の歴史研究に情熱を傾けられておられる村上恒夫氏をお願いした。村上氏は、龍馬研究を思い立った御自身の体験を基に「だれでも志を立てることによって、大業が成し遂げられる。」と語り、大きな感銘を与えた。

また、アトラクションの「伊予長浜豊年踊り」は、苦しい農業生活の中に明るさを求めた一青年の発想から生まれた郷土芸能で、昔懐かしい農作業の様子をユーモラスに演じる姿には、地域学習の素材を示唆するものが感じられた。

次回はまた海を渡り、島根県で開催されるが、お互い新しい実践を重ね変わらぬ心でお会いしたいと願っている。

愛媛県市町村社会教育委員連絡協議会
事務局 森 謙司

大会宣言

私たち全国の社会教育委員をはじめ、社会教育関係者が、「自然と文化のかおり豊かな」ここ佐賀市において一堂に会し、「地域の特性を活かした生涯学習の在り方を考える」を研究主題として、第三十五回全国社会教育研究大会を開催した。

今日、わが国においては、いわゆる「生涯学習振興法」に基づき、国や各地方公共団体において、生涯学習推進体制の整備・充実が着実に図られてきている。

このような状況の中で、私たちは生涯学習推進の視点に立ち、社会教育の今日的課題を探り、その解決をはかるため、各地域における活動状況や研究の成果を持ち寄り、研究討議を深めた。そして、生涯学習時代を迎えた今日、社会教育のより一層の推進のためには家庭、地域はもとより、学校、企業、社会教育関係団体及び行政が各々の役割を果たしつつ、相互の連携・協力を続けていくことを確認した。

生涯学習の中核となる社会教育の役割は、今後ますます重要になると予想されることから、私たちは、その責務を強く自覚するとともに一層の努力を続けていくことを誓い、本大会の総意を持って、次の事項の早期実現を期するものである。

- 一 人権を尊重し、差別のない明るい社会を実現するための教育を積極的に推進すること
 - 二 心豊かでたくましく生きることのできる青少年の育成を図ること
 - 三 人々の学習活動を支援するため、社会教育施設・設備を拡充するとともに、専門的指導者の充実・確保を図ること
 - 四 今日の課題に対応し得る社会教育を推進するため、社会教育関係法の整備を図ること
 - 五 社会教育を積極的に推進するため、財政基盤の確立を図ること
- 以上、宣言する。

平成五年十月十五日

第三十五回全国社会教育研究大会

基本増強募金の納入状況について

本会の事業推進に当たり格別のご支援を賜り、有り難うございます。

前号（第三十三号）におきまして、「重ねて寄付金の募集にご理解を」のお願いと、「募金趣意書」を掲載して現状をお知らせ致しましたが、平成四年度及び五年度の二カ年計画最終年度の六月一期末現在の納入累計額は、

一一、五五一、七二〇円
(一八・三三%)

納入の県都市の内 完納八団体、一部納入十五団体にしか達しておりません。

前回【基本増強計画募金状況】の内容を掲載いたしましたのが、その中で既申込額と未報告都市分の目標額を足しますと、募集目標額の八八・七六%と出ておりましたが、一月末現在では募集目標額の一八・三三%です。

この状況をご勘案の上現在未納入の県都市におかれましては、最終年度となりますのでご理解を深めていただきここに重ねてご協力をお願いを申し上げます。

(備考) %は募金目標総額六、三〇〇万円対比

新刊案内

生涯学習と地域ルネサンス

瀬沼克彰 著 定価2,500円(税込) 送料310円

生涯学習の目的とするところの一つの視点として、個人と地域社会という構図、相関関係を重視してきた。一方地域から、その土地ならではの文化が生まれ、育ち発展する。わが国の経済優先、効率主義に対するマイナス面を是正する一つの方策として生涯学習が台頭し、現在、全国各地に伝播し、さまざまな動きが起こっている。今日の地域づくりを、あるもの、素材を発掘し、磨きをかけて新しいものに再生していく意味で“地域ルネサンス”と呼ぶことにした。本書は、生涯学習の舞台づくりを念頭に置き地域の再生“ルネサンス”の方策を提示したいというのが主なねらいである。

(はしがきより)

発行 (財)全日本社会教育連合会

〒100東京都千代田区霞が関3-2-3(国立教育会館内) ☎03-3580-0608

第36回全国大会開催地 「イーハトーブの光と風、詩情豊かな岩手路へ」おでんせ!

平成六年度の全国社会教育研究大会〔岩手大会〕を、十月四日～六日に開催させていただくことになり、全国から多数の社会教育関係者を温かくお迎えするために、関係者一丸となって準備を進めているところです。

そこで、今回の開催地であります岩手の紹介をしたいと思います。

◆「雄大な大地」岩手◆

岩手県は人口約百四十一万六千人、北東北の一角を形成し、面積は、一万五千二百七十平方キロメートルで、ほぼ四国四県に匹敵します。

県の西部は、十和田・八幡平国立公園、栗駒国立公園をもつ奥羽山脈が走り、散在する多数の温泉群は多くの観光客やスキー客で賑わいをみせています。

東部は、早池峰国立公園を中心にし北上山地が広がり、両山系の間を流れる北上川は様々な潤いとロマンを与え、多くの詩歌を生んできました。

東側の太平洋岸は、豪壮な断崖と繊細なりアス式海岸が織りなす海岸美を誇り、陸中海岸国立公園となつています。

この三陸海岸一帯は、世界四大漁場として知られる三陸漁場をひかえ、優れた港湾に恵まれています。

◆「炎立つ」壮大な歴史ロマン◆
「田舎なれども南部の国は西も東も金の山」これは岩手の代表的な民謡「南部牛追い唄」の一節です。

およそ九百年前の平安末期、壮絶を極めた前九年の役、後三年の役を経てみちのくの大地に理想の楽土建設を願って、黄金文化の花を開かせた、北方の王者藤原四代の古都平泉は、世界に「黄金の国ジパング」を印象づけた絢爛たるみちのくの都でした。

今、金色堂に華やかだった往時を偲ぶことができ、NHK大河ドラマ「炎立つ」に沸いています。

◆豊かな精神風土を育む岩手◆

情熱と望郷の詩人石川啄木がこよなく愛した岩手の風土、永遠の理想を求め続けた郷土の詩人宮沢賢治が、理想郷「イーハトーブ」と呼んだ岩手、

「智恵子抄その後」などを生み、その精神世界をこの岩手の地で大成させた高村光太郎など、多くの詩人たちが育ちました。

そもそも岩手は、平民宰相原敬など五人の首相を始め、五千円札の新渡戸稲造など各界に多くの人材を輩出したところとして知られ、県内各地にこれらの人物記念館が数多くあります。

また、岩手は、「民話と伝説のふるさと」

「遠野」の風土を生み、鬼剣舞や鹿踊り、神楽など多数の民俗芸能や民俗行事の宝庫でもあり、大会ではその一端をご紹介できるものと思っております。

◆みんなて築くふるさと岩手◆

広大な土地、清浄な空気と水、秀麗な山河など優れた自然環境や、ゆとりある生活空間に恵まれている本県は、自然と共存する定住の場として、また望ましい理想的な発展の姿を実現できるところであります。

このようなことから「豊かな自然の中に、活力と希望にあふれ、心のふれあうふるさと岩手の創造」を基本目標に「みんなで築くふるさと岩手第三次岩手県総合発展計画」が策定され、岩手で生まれ、学び、そして暮らすことに幸せを感じる事ができるようなるさつとづくりが進められています。

この計画では、広い県土を結ぶ「高規格幹線道路」や「生物工学研究センター」「工業技術センター」「ノーマライゼーションランド」など、快適な県土づくりを進める事になっています。教育の分野では、生涯学習活動を支援する中核的な施設「生涯学習センター」をはじめ、「養護学校」「情報処理教育設備」「美術館」の整備、「国際

交流の推進」など、はつらつと生きる心豊かな人づくりにも力を注いでおります。

◆みちのくの小京都「もりおか」◆

会場地盛岡市は、四百年の歴史を刻む南部藩二十万石の城下町です。

秀麗岩手山を仰ぎ、盛岡城跡を中心にした杜と水の都にふさわしく、重要な文化財ともなっている擬宝珠のある橋は町並みによく調和し、みちのくの小京都と言われています。

すばらしい景観を大事にし、歴史と伝統が息づく都市づくりで数々の表彰に輝く街を散策した後の、名物わんこそば「も一興か」と存じます。

◆全国社会教育研究大会への期待◆

岩手では、昭和四十年代から「社会教育の総合化」の名のもとに、生涯に亘る教育編成をめざし、様々な施策が展開されてきました。三十年に及ぶ教育振興運動もその一つです。

この機会に全国の皆様からご指導いただくことを光栄に思っています。私どもは、全国各地の優れた社会教育の実践を学び、本県社会教育の前進につなぎたいと意気込んでいます。

光る海と青い山河に抱かれた詩情豊かな岩手路へ、是非ともお出でいただきますよう心よりお待ち申し上げます。

(岩手県社会教育連絡協議会事務局)

事務局だより

▲平成5年度第2回総会終わる

平成5年度第2回目の総会が第35回全国大会（佐賀大会）の第一日目に次の通り開催されました。

日時 平成5年10月13日（水）

16・30～17・30

会場 佐賀市文化会館 大会議室

総会は定刻に司会者より開会を宣し、本総会は定款第26条により定足数（正会員数60名中出席者59名）を満たし成立する旨を告げ、まず鈴木勲会長の挨拶があり、次に宮原久第35回全国大会実行委員長より全国大会開催について各県のご協力に対してお礼の挨拶がありました。

ひきつづき議長の選任を行い、竹下哲長崎県会長を選出し、議事録署名人として鈴木完一福島県会長と高柳正平千葉県会長を指名して議事に入りました。

議事

第1号議案 第36回（平成6年度）全国大会の開催について

水本光夫岩手県会長より大会開催要項案について説明があり、期日は平成6年10月4日（火）、5日（水）、6日（木）の3日間、岩手県民会館において開催したい旨発表があり、満場一致で承認、可決されました。

第2号議案 第37回（平成7年度）全国大会開催地区（ブロック）について

て石浦事務局次長より説明し、第37回全国大会の開催地は近畿地区になる旨発表した結果、全員異議なく承認されました。

第3号議案 表彰規程施行細則第3条の改正について

小杉山専務理事より表彰規程施行細則第3条の改正について、案に基づき詳細な説明があり審議の結果、本案のとおり異議なく承認されました。

【改正文】

第3条 表彰者は都道府県ごとに社会教育委員現員数が九〇〇人

までは一人、九〇一人より、一、八〇〇人までは二人とする。ただし、北海道については五人とする。

2 指定都市の表彰者は、全指定都市にたいし二人とする。

付則 この改正は平成5年10月14日から施行する。

改正の理由
本表彰規程施行細則の制定後、

都道府県ごとの社会教育委員の現員数に変動があったこと、また指定都市の増加により改正するものである。

▲県の社教連会長に就任

- 松井吉二氏 石川県
- 高島正信氏 宮崎県
- 榊原吉郎氏 京都市
- 井上 宏氏 大阪市
- 大也 正氏 北九州市

▲平成6年度 地区別開催県

平成6年度の地区別（ブロック別）の社会教育研究大会の開催県、開催期日、会場が次の通り決定しました。

北海道地区―滝川市

期日 平成6年10月13日・14日

会場 滝川市文化センター

関東甲信越静地区―群馬県

期日 平成6年9月8日・9日

会場 水上町観光会館

東海北陸地区―富山県

期日 平成6年10月7日・8日

会場 富山県民会館

近畿地区―兵庫県

期日 平成6年6月21日・22日

会場 城崎大会議館

中国・四国地区―島根県

期日 平成6年5月26日・27日

会場 島根県民会館

九州地区―長崎県

期日 平成6年9月8日・9日

会場 長崎市公会堂

指定都市―札幌市

期日 平成6年5月19日

会場 札幌市ホテルノースシティ

東北地区は全国大会（岩手県）と合併して開催する。

▲機関紙「社教情報」第30号の発行

全国でご活躍の社会教育委員を結ぶ唯一の機関紙であります「社教情報」第30号（A5判64頁定価三〇〇円千一九〇円）を2月下旬に発行します。年2回の発行ですが、好評で

全国各地の社会教育委員の交流と研修の糧として、ぜひご愛読下さいませようおすすすめいたします。

第30号の主な内容

特集『現代の課題の社会教育事業』

◆論文―現代の課題に関する社会教育の役割

安田女子大学教授 池田 秀男

◆論文―現代の課題の社会教育事業の種類とタイプ

淑徳短期大学助教授浅井 経子

◆誌上講座―「現代の課題」に関する学習プログラム

埼玉県立浦和図書館長 村田 文生

◆実践事例として

宮城県牡鹿町、栃木県足利市、神奈川県川崎市、徳島県三加茂町。

◆施設紹介

大阪市立自然史博物館

◆随想

◆視察記

ヨーロッパ・東南アジア視察団

◆レポート

長野県茅野市、石川県松任市

▲善意

昨年12月、長崎県の地方公務員（匿名）の方より社教連の募金の一部にと千円のご寄付がありましたので、お知らせしておきます。